

しのぶぴあ

No.29
2008
SPRING

特集 放談会「自分らしく生きるということ！」
大変な家族にこそ 最高の環境を ～「パンダハウスを育てる会」



表紙紹介 (民家園 旧廣瀬座)

明治時代に伊達郡梁川町(現伊達市梁川町)の有志によって町内広瀬川川岸に建てられた芝居小屋です。福島市西部にある福島市民家園に平成6年に復原され、当時の様子を伝える貴重な芝居小屋として国指定重要文化財に指定されています。普段は「たちみ席」までしか入ることはできませんが、年に1回程度芝居小屋として公演が行われているそうです。構図を決めるときにアシサイの木が眼に入ったのでひと足早く映かせてみました。



大変な家族にこそ 最高の環境を ～「パンダハウスを育てる会」

病気とたたかう子ども達とその家族がゆったりと滞在できるようにと作られた「パンダハウス」。この施設の運営を陰ながら支えている「パンダハウスを育てる会」のみなさんの活動をご紹介します。



○パンダハウスとは?

県立医大付属病院で治療を受けている子どもと付き添う家族のためのサポートハウスです。病院に程近い、緑と自然に囲まれた静かな環境に建つ軒家です。ここが「一時外泊の際に家族で食事をした、遠くから面会に来た家族の宿泊場所になったりします。リビングには絵本やおもちゃが置かれ、キッチンが料理やおやつが自由に作れるように備品が揃っています。まるで自宅にいるように感じる「もうひとつの我が家」として利用されています。

○あくまでも裏方として

平日ボランティアスタッフが交代で午前中だけ常駐し、掃除や事務処理を行います。利用する家族に気持ちよく施設を使ってもらうための環境を整えることが主な活動です。「この活動を始めてもう10年。仕事をしているスタッフもいますし、無理せず手の届く範囲でのサポートを心がけています」と語るの代表の山本佳子さん。病気とたたかう本人と



▲ 月1回ほど全員そろって打ち合わせ

家族に心地よく快適な環境を提供したい。そして何よりも家族同士の結束が、一番大切なことなので、あくまでも裏方としてサポートしていくことが「育てる会」の方針です。

○活動を知ってもらうために

恒例のバザーも好評です。春と秋の2回福島県立医大付属病院のロビーで行われます。スタッフや手作り仲間の手工芸作品などが出品され、毎回病院を訪れる人々や職員に大好評です。私達が訪れた日も様々な人が足を止め、思い思いに品定めを楽しんでいました。バザーで得られる収入も大切な活動資金になり、それ以上に活動の内容を知ってもらうのに重要な役割を果たしているのです。



▲「パンダハウスを育てる会をよろしくお祈りします」

連絡先

「パンダハウスを育てる会」事務局

福島市蓬萊町8-15-11
TEL & FAX 024-1548113 7111
<http://homepage2.nifty.com/panda-house/>
panda-house@nifty.com



＜取材を終えて＞

アットホームで居心地のいい場所を提供するところが、少しでも子ども達の病気の回復や家族の心の安らぎにつながれば、というスタッフのみなさんの思いが伝わってききました。また、楽しそうに和気あいあいと活動されていたのがとても印象的でした。「仕事と家庭」だけでなく、それ以外の場所にも自分の仲間がいて、誰かの役に立っているという喜びがある。そして自分も周囲も元気になる。このように、生活のバランスをうまくとって、いきいきと活動することが自分らしく輝き、元氣な社会を作る第一歩になるのでは、と感じました。

編集後記



「自分らしさ」って何だろう。簡単なようですが、実は答えるのがとても難しいテーマだと思います。

今回の放談会は、性別も年齢も職業も違う方々のお話を一度に聞くことができた貴重な機会でした。一人一人の立場は違っても自分らしさを求める気持ちは誰でも同じように持っているのだと、改めて実感できました。これを機に、皆さんも家族や仲間同士で「自分らしく生きる」ことについて考えてみてはいかがでしょうか。

春は出会いと別れの季節。今春から幼稚園に通う息子は、年初の初詣で「お友達がたくさんできますように」と「生懸命お願いしていました。さてさて、親の私も頑張らないで。」

母親として、編集委員として、この春も新しい発見や素敵な出会いがたくさんありますように。

編集

しのぶぴあ編集委員会

伊藤啓子 加藤麻里 佐藤映枝

表紙 切絵作家のさとうてるるさんの作品です。

※「しのぶぴあ」は年2回発行。各学習センターなど市窓口に置いてあります。

また、市のホームページでもご覧いただけます。現在、編集委員を募集しています。詳しくは、ホームページか、お電話等をお願いします。



自分らしく生きる「自分らしく生きるためのヒント」



「自分らしく生きる」ということ。「1」について、いろいろな職業や年齢の社会人の万7名にお集まりいただき、話し合った内容を紹介します。

●今の状況
 ●就職のときなど、今の社会はまだ男性優遇なのかと思います。
 ●男性が優遇されているかどうかは人それぞれだと思いますが、10年くらい前と比べると女性の活躍の場はどんどん提供されていると感じます。

●適性について
 ●家族や地域社会など生まれ育ってきた環境によるのではないのでしょうか、決め付けの社会の中で育てば、どうしてもそういう風になってしまうのではないかと思います。
 ●自営業なので夫婦や家族でやっていますが、代表者は男性というのがまた社会通念で強いと思います。まだ男女関係なくということまではいっていない状況です。

●これから必要だと思ってる
 ●次世代を育てていく事に対して我々男性はその立場を理解し、サポートしていかねばならないと思います。(女性も)子育てが終われば、一人の人間として社会活動に参加していかなければならないし、そういう活動のできるような立場や環境を作らないといけない。(男性としての)責任もあります。
 ●「わたしの田舎も農業の盛んな地域で、周りは「跡継ぎがない」と言っていますが、出来る訳が無い環境だと思います。」
 ●女性が社会的な活動などに出て行けるという家は、1割にも満たないではないでしょうか。女性を出したくないという風習はまだあります。これから農村部でも男性ばかりでやってきたので改善がない。やはり、女性を感じるの感覚が次の社会を作るの必要だと思います。

●情報と責任
 ●自分も社会も、知らない間にメディア等何となくそういう方向に流れて、それが良いものだという事になってしまっています。
 ●幼稚園にお迎えに行くときのバッグ何万円とか。雑誌などにそういう内容が多すぎるから、自分もそうしないといけないような気になってしまっています。
 ●外開け飾り中味はどうなのという感じですね。お金で買える生活というのは安住できなくなるといって、上を目指して。自分で置きよせた自己責任の格差もあると思います。それで、「誰も何もしてくれない病」が流行っています。周りのみんなが何とかしてくるに違いないという中で、無計画に生活(行動)した結果を「政治や市役所は何となくしてくれない」だから自分の責任は無いのかという、そのような事はない。
 ●いろいろなアンテナがあるとお金が無くても遊ぶことはできるが、アンテナを張っていないと安易に何でも買ってしまう。それが、子どもにも影響しているのではないかと思います。
 ●社会に出ると「見自由に見るが、行動の結果として責任がいきます。子どものことを何でもお金で解決してしまうのも、子どもがそういう風に育ってしまうのも責任として戻ってきてしまう。」
 ●それを自分の責任として受け止められるかどうかですね。
 ●夫の責任にしたりして。誰のせいでもなくて、自分のせいなのに。きちんと見つめ直さないと。
 ●「自分のやりたいことをやる」に賛成です。まっくらの活動には、子どもにも参加してもらい自分のやっているのを見てもらおうよ

●固定費削減分抱いて遊べない
 ●「もう何年前、男性の友人にばったり会って一緒にご飯を食べ、自分の分のお金を出した時、対等だと思っていた友人に「いいよ、俺がこ悪いじゃない」と言われて、おいてもらおう

●同僚さん
 ●何年前、男性の友人にばったり会って一緒にご飯を食べ、自分の分のお金を出した時、対等だと思っていた友人に「いいよ、俺がこ悪いじゃない」と言われて、おいてもらおう

●同僚さん
 ●何年前、男性の友人にばったり会って一緒にご飯を食べ、自分の分のお金を出した時、対等だと思っていた友人に「いいよ、俺がこ悪いじゃない」と言われて、おいてもらおう

●同僚さん
 ●何年前、男性の友人にばったり会って一緒にご飯を食べ、自分の分のお金を出した時、対等だと思っていた友人に「いいよ、俺がこ悪いじゃない」と言われて、おいてもらおう

自分の中にいろいろなアンテナがあるとお金がなくても豊かになれる。

を当たり前前に行っている女の人がいることに気が付きました。
 ●忘年会や新年会などの集まりで「男性は3000円で女性は2000円会費ね。」と。それも、男性ではなく女性から言われる場合もあつたりして。
 ●男女共同参画社会に對等であるべきはずの男女なのに、女性が自らの地位をおとめていることがあると思います。女性の側の意識、それが比較的若い年代の人に多いのは社会が良方向に進んでいるといえないのではないかと。女性の立場を自分で傷つけている女性が結構いるような気がします。

夫の職業で妻自身の地位まで上がってしまったような感覚でしょうか。
 ●仕事しながら子育てをしているので自分らしく生きるために自分の技術や得意な分野を生かして仕事に活かして生きたいと考えています。また、人それぞれを認め合うことが大事で、その中で生かされていると思うことで自分が輝ける環境ができればいいと思います。

仕事以外で社会参加する機会を持ちたいと考えています。「ワーク・ライフ・バランス」を推進し仕事と家庭、地域活動のバランスをと言いつつ、自分ができてくれないのは困りますので、実践したいと思っています。
 ●子どもを成人させるのが目標で、その時は自分なりの目標があったのですが、3人とも20歳を越えて立派に巣立ってくれたので、今は具体的なものはありません。これからは自分がいることで誰かの、何かの役に立つことができたいです。また、そのような活動ができればと思っています。
 ●来年選考で、2回目の成人式だと思っています。公民館活動などに参加していきたくて、異業種の方と付き合わせてもらい、今は飯飯の観光や地域づくりもさせていたかのように感じました。今、子ども達は仮想空間の中で生きている頻度が高いので、自然にいてもと知ってほしいです。また、そのような活動ができればと思っています。
 ●子どもから手が離れて思ってもいなかったことに眼が行くようになり、フィリピンに友人がで、地元の方の家へ行くなど交流しています。切なかつたのは、貧しいため子どもが働いていることです。貧しい国は現実であって、日本は格差があつても格差ではないと肌で感じました。この視点を大事にして、何かしなくてはならないと思っています。

自分らしく、生きるということ。テーマに話合っていた。まだまだお話を聞きたいところですが、これで終了いたします。ありがとうございます。
 ●自分らしく、生きるということ。テーマに話合っていた。まだまだお話を聞きたいところですが、これで終了いたします。ありがとうございます。

自分らしく、生きるということ。テーマに話合っていた。まだまだお話を聞きたいところですが、これで終了いたします。ありがとうございます。
 ●自分らしく、生きるということ。テーマに話合っていた。まだまだお話を聞きたいところですが、これで終了いたします。ありがとうございます。

自分らしく、生きるということ。テーマに話合っていた。まだまだお話を聞きたいところですが、これで終了いたします。ありがとうございます。
 ●自分らしく、生きるということ。テーマに話合っていた。まだまだお話を聞きたいところですが、これで終了いたします。ありがとうございます。

自分らしく、生きるということ。テーマに話合っていた。まだまだお話を聞きたいところですが、これで終了いたします。ありがとうございます。
 ●自分らしく、生きるということ。テーマに話合っていた。まだまだお話を聞きたいところですが、これで終了いたします。ありがとうございます。

自分らしく、生きるということ。テーマに話合っていた。まだまだお話を聞きたいところですが、これで終了いたします。ありがとうございます。
 ●自分らしく、生きるということ。テーマに話合っていた。まだまだお話を聞きたいところですが、これで終了いたします。ありがとうございます。

自分らしく、生きるということ。テーマに話合っていた。まだまだお話を聞きたいところですが、これで終了いたします。ありがとうございます。
 ●自分らしく、生きるということ。テーマに話合っていた。まだまだお話を聞きたいところですが、これで終了いたします。ありがとうございます。

Key Word
 キーワード

メディア・リテラシー
 メディアとは新聞・テレビ・ラジオ等の情報媒体のこと。メディアの情報をただ、うのみにするのではなく、私たちが受け取る側として判断・評価し、活用する能力のこと。

ワーク・ライフ・バランス
 「働き方」と「暮らし方」の調和のとれた生活のこと。わたしたち誰もが、さまざまな状況において「仕事」「家庭生活」「地域生活」などの活動について望むバランスで生活できる状態のこと。

おすすめBOOK
 世界を信じるためのメソッド

～ぼくらの時代のメディア・リテラシー～

メディアは人の命まで影響を及ぼす？それほどまでに人生を左右しているものなのか改めて考えさせられました。情報の洪水の中でわたしたちは何を信じ、考えていったらいいのでしょうか。世の中を知る上で、メディアを読み解くこと(リテラシー)の大切さに気づくことができます。子どもから大人まで幅広い世代の方にオススメの一冊です。

森 達也 著
 理論社
 1,250円(税込)

あなたのご意見もお聞かせください。
 〒960-8035 福島市本町2-6 男女共同参画センター「ウズ・もともち」 Fax. 024-522-1528
 まで、お手紙またはFAXでお願ひします。

放談会を終えて
 さまざまな視点があふれた放談会でした。自分らしく生きるためには、固定概念にとらわれずに自分の価値観を持つこと。そして、一人ひとりが意識と意欲をしっかり持つことだと感じました。

50代、自営業



30代、団体職員



30代、会社員



50代、主婦・パート



40代、会社員



30代、主婦



50代、農業

